事例No.	3119
公表年度	R6
団体の属性	町村
団体名	岡山県西粟倉村

事例区分	DX

タグ	・AI ・人材確保・育成

事例種類	事業効率化

事例内容・タイトル

小規模自治体における緩やかな生成AI活用促進

出典

自治体におけるAIの利用に関するワーキンググループ（第2回）④

本格導入 08

主な活用事例 業務支援・情報検索

小規模自治体における緩やかな生成AI活用促進（西粟倉村）

事例のポイント

- 職員の業務内容の特徴を掴んだ上で、業務の効率化が無理なく実現するよう、生成AIで解決したい課題を定め、繁忙期を避けて勉強会を開催するなど緩やかに利用を促進している。
- 有料サービスはできる限り利用しない一方で職員の基礎的なリテラシーの向上に継続的に取り組んでいる。

- **生成AIの利用状況：**
  2023年より、「LoGo AIアシスタントbot版」のトライアル利用をはじめとして、GPT-4相当の生成AIを無料で利用できるサービスを選んで、日常業務を中心に全庁で利用している。
- **導入に至った経緯・背景：**
  2023年7月、デジタル利活用推進を担当する職員が生成AI活用を提案して以降、新技術を利用したサービスの活用に前向きな若手職員を中心に、継続的にサービスを選定し利用を進めている。
- **生成AIの活用内容：**
  資料や文書の作成支援や要約などに活用しているほか、「LoGoフォーム」をカスタマイズするためのJavaScriptのコードや、村内調査の結果をグラフ化するためのPythonコード作成にも活用している。
- **生成AI活用促進の取組：**
  ・総務省によるChatGPT等の生成AIの業務利用に関する事務連絡を受け、利用方法や成果物の評価など、庁内の実状に合った独自のガイドラインを情報政策担当者により作成した。
  ・生成AIに関する体系的な勉強会を開催した際には、半数以上の職員や公立中学校の校長などが参加した。勉強会ではプロンプトのテンプレートを配布するなどし、それ以降も継続的な利用が確認されている。

生成AI勉強会の様子



西粟倉村役場にて 2024年2月撮影

- **導入による業務改善効果：**
  画像の取得や、JavaScriptやPythonなどのコード作成作業においては、検索エンジンを使用するよりも作業時間を短縮する効果がある他、議事録などの長文の要約が容易にできるなど、複数の作業において職員の作業効率の向上に寄与している。
- **導入における課題：**
  職員人数が比較的少ない小規模自治体では、職員あたりの業務の種類が多いため、業務ごとにシステム化して個別に作業時間を圧縮するようなアプローチでは、職員単位の作業効率の向上には繋がりづらいなど、大規模自治体とは異なる特徴がある。西粟倉村では、繁忙期を避けて生成AIに関する勉強会を開催したり、「Microsoft Excel」の一般的な操作についてリテラシーを向上する取り組みも併せて行うなど、生成AIの利用を強制しないかたちでの緩やかな導入促進を図っている。
- **今後の生成AI利用の展望：**
  ・生成AIはプロンプトによって得られる出力の精度が異なるため、生成AIの利用には職員の基礎的なリテラシーの向上が必要である。その上で、作業時間を圧縮できるようプロンプトのテンプレートの充実や、新しい技術やサービスの登場にも対応できるよう継続的な開催を検討している。
  ・自治体職員自身が生成AIを利用しなくとも、民間企業などとの協力時に、生成AIの成果物を職員が評価するケースが今後増加するものと想定されるため、すべての職員が生成AIの利用を他人事とせず、リテラシーの向上や情報の収集に継続的に取り組むこととしている。

スケジュール

- 2023年　6月：　生成AIガイドライン作成開始（8月公開）
- 2023年　7月：「LoGo AIアシスタント（bot版）」のトライアル利用開始（～9月）
- 2024年　2月：　生成AIに関する庁内勉強会の開催